

本は東大に保存されているが、これには三本の個体がはられている。左側の一つには牧野先生の手で「コレハ普通品ニテ別」と記され他の二本から書かれたことがわかる。二本のうち右側の一本は原寛博士によつて「*Veronica beccabunga* L. Det. H. Hara 1934」と書かれ、事実 *V. beccabunga* である。残つた中央の一本がオオカワジシヤにあたるが、これは欧州にある *V. anagallis-aquatica* そのものである。牧野先生はカワジシヤ (*V. undulata*) と比較して区別されたと思えるので、カワヂシヤとは別のものとするのは当然であるが、欧州の *V. anagallis-aquatica* から区別する必要はない。問題なのはこの Savatier の標本は日本で採集したのではないだろうと思われることである。左側の普通品なりと書かれた標本はカワジシヤでなく *V. anagalloides* で欧州のみに知られ、東亜にはみられないものである。右側の *V. beccabunga* も欧州のもので支那からは報告されることもあるが日本では見られない。日本でもときに茎の中部以下の葉に柄をもつものがあり *V. beccabunga* とよばれることがあるが、これはカワジシヤの秋型のものである。中央の標本も果実が大きい点から支那や満洲にみられるものでなく欧州系の *V. anagallis-aquatica* である。東大に所蔵されている Savatier 氏が日本で採集したという標本は採集地は日本と書かれているがそれにはつてあるものは欧州の標本を代用したらしく、「このようなものは断然焼きすてるべきである」と牧野先生は明治 42 年の植物学雑誌 23 巻に書いておられる。オオカワジシヤの場合も同じ例であり、東大にある Savatier 氏の標本は欧州のもので *V. anagallis-aquatica* そのものである。葉山附近で採集されたものは後になつて帰化したもので Savatier 氏が採集した時代からあつたのではないと思う。Savatier 氏が採集した真の no. 903 の標本は恐らくフランスにありカワジシヤ (*V. undulata*) であろう。

□ 黴という字のもとの意味 (前川 文夫) Fumio MAEKAWA: Old meaning of the chinese letter, substituted now for mould.

前漢の武帝の頃にでた淮南子には、聖人達が民衆の為に苦勞する条があつて「神農は憔悴し、堯は瘦せ、舜は黴黒になり、禹はたこが手にできた」意味を述べているが、この黴は顔が日に焼け且つ埃などで汚なくなつたことを意味する。前漢の終りの劉向の作つた楚辭九歎の逢紛の歌中にも“屈原の顔が黴黧”とあつて黒ずんだという意味だけである。後漢の時にでた辭書説文になると黴を説明して“久雨に中(あた)つて青黒なり”と出て、どうやらこの辺からはじめてカビとの関連がうかがえる。日焼けの黒い顔色から一転して雨にあたつて黒くなり、さらにその原因のカビへと再転したという変化がみられる。